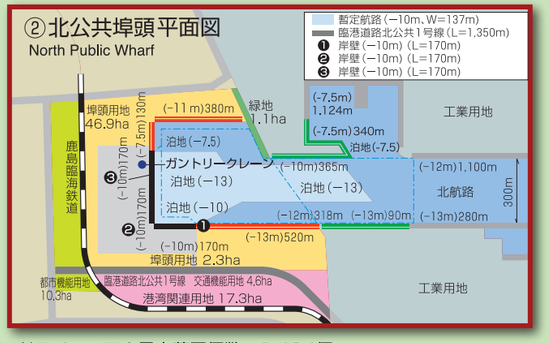
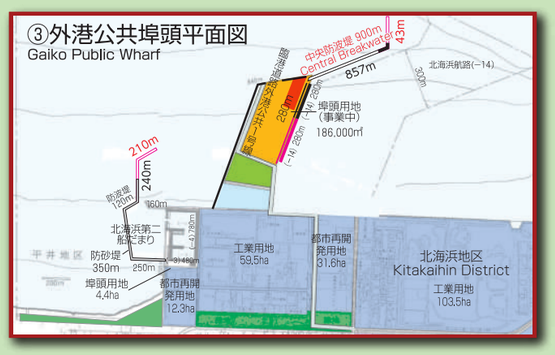
臨海工業地帯における工業港をベースに商業港としての機能も強化
より利用しやすい港を目指し、整備が進む公共埠頭

現在鹿島港では、水深10mと7.5mの岸壁を合わせて8バースを備える南公共埠頭に加え、北公共埠頭と外港地区の建設が進められています。北公共埠頭は、2002(平成14年)に水深10mの1バースが完成し、岸壁背後の埠頭用地と合わせて供用開始されました。さらに、2006(平成18)年には、水深10mの3バース目とガントリークレーンが供用開始され、さらに使いやすい港へと整備が進められています。

外港地区においては、2013(平成25)年4月に耐震強化岸壁を備えた新たな公共埠頭として「外港公共埠頭」が供用開始されています。利便性、安全性向上に向けて、防波堤の延伸とともに、航路・泊地の浚渫が進められています。

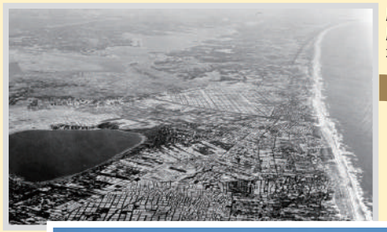


ドライコンテナ最大蔵置個数　1,484個
リーファーコンテナ最大蔵置個数　40個
ガントリークレーン　アウトリーチ　29mの横9列対応

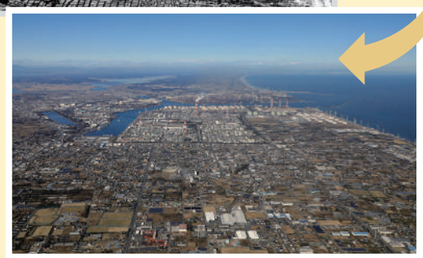


鹿島港の沿革

1963 (昭和38)年 11月	重要港湾に指定される、起工式
1965 (昭和40)年 11月	中央航路掘込み開始
1968 (昭和43)年　9月	南航路浚渫、神之池埋立開始
1969 (昭和44)年　6月	第１船入港
1969 (昭和44)年　8月	関税法に基づく開港となる
1969 (昭和44)年 10月	検疫法に基づく開港となる
1971 (昭和46)年 10月	水先法に基づく水先区となる
1973 (昭和48)年　8月	植物防疫法に基づく指定港となる
1975 (昭和50)年　7月	港湾運送事業法に基づく指定港となる
1975 (昭和50)年 11月	南公共埠頭一部供用開始
1989 (平成元)年　7月	南公共埠頭　-10m岸壁供用開始
1990 (平成２)年　6月	家畜伝染病予防法に基づく検疫指定港になる
1992 (平成４)年　2月	南公共埠頭多目的クレーン供用開始
1992 (平成４)年　6月	鹿島港南物流センター完成
1993 (平成５)年　8月	港湾計画改訂
1994 (平成６)年　2月	北公共埠頭建設着手
1996 (平成８)年　9月	東南アジアRORO航路開設（1997年10月航路廃止）
1997 (平成９)年 10月	中国定期コンテナ航路開設（2002年1月航路廃止）
1999 (平成11)年　2月	北航路掘込み開始
1999 (平成11)年　4月	台湾･香港･東南アジア定期コンテナ航路開設（1999年8月航路廃止）
1999 (平成11)年 10月	韓国定期コンテナ航路開設（2000年5月航路廃止）
2002 (平成14)年 11月	北公共埠頭一部（-10m岸壁、1バース目）供用開始
2004 (平成16)年　8月	北公共埠頭一部（-10m岸壁、2バース目）供用開始
2006 (平成18)年　2月	北公共埠頭一部（-10m岸壁、3バース目）供用開始
2006 (平成18)年　2月	北公共埠頭ガントリークレーン供用開始
2007 (平成19)年　4月	港湾計画改訂
2008 (平成20)年　8月	定期コンテナ（国際フィーダー）航路開設
2011 (平成23)年　2月	韓国･中国定期コンテナ航路開設（2011年3月航路休止）
2011 (平成23)年　3月	東日本大震災発生
2011 (平成23)年　5月	国際バルク戦略港湾（穀物）に選定
2011 (平成23)年 12月	港湾計画一部変更
2012 (平成24)年　7月	港湾計画一部変更
2013 (平成25)年　4月	外港公共埠頭一部(-14m岸壁、1バース目）供用開始
2016 (平成28)年　7月	韓国定期コンテナ航路開設
2016 (平成28)年　9月	定期コンテナ（国際フィーダー）航路開設
2017 (平成29)年 12月	定期コンテナ（国際フィーダー）航路増便
2019(令和元)年 10月	鹿島港整備関連施設群が土木学会選奨土木遺産に認定
2019(令和元)年 11月	鹿島港開港50周年記念講演会･祝賀会開催
2020(令和２)年　3月	港湾計画一部変更
2020(令和２)年　9月	海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾（基地港湾）に指定



鹿島開発前の
鹿島臨海工業
地帯



現在

1967(昭和42)年
中央航路

現在

外航船
第一船
入港

現在